

# 新農薬実用化試験・成績検討会の概要報告

## 茶、寒冷地果樹、北陸、東北、関東、東山・東海、北海道

日本植物防疫協会 調査企画部

### I 茶農薬成績検討会

日本植物防疫協会（上路雅子理事長）は10月16日～17日、都内荒川区東日暮里の「ホテルラングウッド」で、茶農薬に対する薬効薬害試験の成績検討会を開催した。会議には農研機構野菜茶業研究所、茶主産県の試験実施機関、民間試験機関および農薬企業の関係者、計約160名が出席した。

冒頭、上路理事長が「春先からの天候不順に加えて度重なる台風の接近・上陸など、例年に増して悪条件の中で、的確な試験実施に大変なご苦勞をいただき感謝」などとあいさつ。その後、病害・虫害の順で検討が進められた。病害は野菜茶業研究所環境保全型茶生産技術グループの石川浩一上席研究員、虫害は同・佐藤安志上席研究員を検討委員として試験成績の検討が行われた。本年は病害51件（前年は35件）、虫害127件（同125件）と、前年を上回る試験が受託された。

病害分野では少発生の試験が散見され、また炭疽病では多くの剤が効果を発揮できず厳しい結果もあった。また、薬剤処理と菌の接種のタイミング等試験法についても議論が交わされた。害虫分野では、新規化合物の参入がここ数年相次ぎ、主要害虫に対して多くの試験が実施された。侵入害虫として問題となっているチャトゲコナジラミでも多くの試験が実施されたが、研究の蓄積がまだ少ないこともあり、効果のふれが目立つ結果となった。現場からのニーズを踏まえたナガチャコガネ成虫に対する試験も本年度から着手され、おおむね良好な試験結果が得られた。

### II 寒冷地果樹農薬成績検討会

10月21日～22日、都内荒川区東日暮里の「ホテルラングウッド」で、寒冷地果樹に対する薬効薬害試験の

成績検討会を開催した。会議には農研機構果樹研究所、りんご主産県の試験実施機関、当協会研究所、民間試験機関および農薬企業の関係者、計約200名が出席。

病害分科会と虫害分科会に分かれ、病害は果樹研究所りんご研究拠点の伊藤伝上席研究員、虫害は同・柳沼勝彦上席研究員を検討委員として試験成績の検討が進められた。本年は病害164件（前年は140件）、虫害113件（同72件）と、前年を上回る試験が実施された。

病害分野ではSDHI系統を含むいくつかの新規化合物が広範な病害を対象に試験が行われ、おおむね良好な試験結果が示された。害虫分野でもジアミド系統を含むいくつかの新規化合物や天敵製剤が供試されたが、近年各地で問題となっているヒメボクトウにも散布剤6薬剤、注入剤2薬剤が供試され、おおむね良好な試験結果が示された。他方、樹幹内の深部にまで入り込むヒメボクトウ幼虫の防除効果の調査が困難であることから、今後の試験法のあり方についても踏み込んだ意見交換が行われた。

### III 北陸地域成績検討会（稲・野菜等）

稲・野菜関係は件数が大変多いため、全国八つの地域



寒冷地果樹検討会、都内で